ユニセフ 子どもネットニュース

2003夏 NO.5

発行者 ユニセフ子どもネット事務局　財団法人 日本ユニセフ協会　広報室　〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス
でんわ：03-5789-2016　ファックス：03-5789-2036　電子メール：jcuinfo@unicef.or.jp

TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS TOPICS

ユニセフトピックス

アルジェリア
地震の被害が広がる

5月21日、マグニチュード6.7の地震がアルジェリア北部を襲いました。震源は、首都アルジェの東80kmの地点で、首都をはじめ広い範囲で大きな被害が出ています。

これまでに3000人近い人びとが亡くなり、8000人以上がけがをしました。ひどいところでは街の80％が破壊されてしまったところもあります。病院も使えなくなり、病気やけがの治療、保健サービスの提供ができなくなっています。また、水や衛生施設もこわれてしまったことから、水不足や、衛生環境の悪化による子どもたちへの病気の広がりが問題になっています。また、多くの子どもたちが、地震の恐ろしい体験によって、心に傷を負い、心のケアが求められています。しかし、地震の後、多くの学校が休校となっています。

ユニセフは災害の直後から、政府やNGOと協力して、緊急支援活動をはじめました。5月26日現在、緊急保健キットや病院用のテント、安全な出産用のキット、2500人の子どもと1000人の赤ちゃん用の毛布、7000リットルのミルク、おむつ7000箱などが、すでに現地に届けられています。

インドネシア・アチェ州
紛争で学校が燃やされる！

燃やされた学校　©AFP

インドネシア、スマトラ島の北部にあるアチェ州では、インドネシアからの独立を求めて、武装組織 自由アチェ運動がインドネシア政府としばしば対立してきました。今年の5月に入って、この対立が激しくなり、インドネシア軍との紛争に発展しています。この中で、自由アチェ運動は、この地域の学校を焼き払い、300近くの学校が焼かれたり、破壊されたりしました。430万人の人口のこの州で、2万3000人の子どもたちが家を追われています。ユニセフやインドネシア政府は、3ヶ月以内に30万人の人びとが避難民となってしまうかもしれないと予測しており、およそ6万人の子どもたちがこの紛争によって影響を受けています。

5月23日の時点で、ユニセフは、1万5000人の子どもたちに学校セットを300個、緊急の学校用テントを50張り、そのほかに、緊急保健キットや衛生キットなどを届けています。

こうした緊急支援を進めると同時に、何よりも平和を築くことが第一とうったえています。そして、戦争で被害を受けた子どもたちが、ワークショップに参加できるようにしたりして、子どもや子どもの権利を守るしくみを地域につくる活動などが計画されています。

アルジェリア　インドネシア

Back to School

アフガニスタン
「子どものための連帯の日」

戦争からの復興にとりくんでいるアフガニスタンで、5月20日、カルザイ大統領がこの日を「子どものための連帯の日」に定めました。「子どものための連帯の日」は、これまでの予防接種や教育など子どもの権利を守るためのさまざまな活動を記念し、また、さらに国中が協力して子どもたちのための活動をすすめていくことをめざしています。

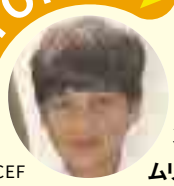
学校の子どもたちもこの日を祝いました。昨年から続いている「バック・トゥ・スクール（学校にもどろう）」キャンペーンによって、今年は420万人の子どもたちが小学校に通うことができるようになるとユニセフは考えています。とくに今年は、女の子たちが学校に通えるようにすることが課題です。

また、5月20～22日にかけて、2003年になって2回目の「全国予防接種デー」がおこなわれ、600万人の子どもたちがポリオの予防接種を受けました。1999年には150件のポリオ感染が報告されていましたが、昨年、その数は10件まで減りました。また、1軒1軒をまわって1歳未満の子どもたちすべての情報を集め、出生登録する作業もはじめておこなわれました。

「子どものための連帯の日」を祝う学校の子どもたち
アフガニスタン北東部のバグラン県で
©UNICEF Afghanistan/Kagoshima

アフガニスタン

STORY
アフガニスタン


©UNICEF Afghanistan/Kagoshima

12歳になったザハラの髪はまだ短いままです。アフガニスタンの北東部、バグラン県プリクムリの町のビビ・アイシャ・シディカ女学校の8年生になったザハラには、これまで秘密がありました。

去年、戦争によってアフガニスタンを支配していたタリバン政権がなくなるまで、女の子は学校に行くことが禁止されていました。でも、ザハラはどうしても学校に行きたかったのです。そして、ひとつのアイディアが浮かびました。「そうだ、男の子になって学校に行けばいい！」

この考えをお父さんに話すと、お父さんは「うーん」と考えこんでしまいました。とても危険なことだとわかっていたからです。お母さんは「そんなことはできないわ」と、心配しました。でも、最後にお父さんは、「本当に行きたいんだね。ならば、行ってみなさい」と言ってくれたのです。

髪を切って、男の子の服を着て、名前もザイヌディンと男の子の名前に変え、ザハラは学校に通い始めました。友だちにも先生にも秘密です。じつは、校長先生だけは、ザハラが女の子だと知っていました。でも、何も言わず、ザハラが学校に通うことをゆるしてくれたのです。

お昼には礼拝をします。礼拝の前には上着を脱いで体を清めます。「もし女の子だとばれてしまったらどうしよう。すごく心配で、こわかった」とザハラは話します。

それから4年、戦争がおわり、去年からは女の子も男の子も学校に通えるようになりました。だんだんと子どもたちが学校にもどり、ザハラの暮らすバグラン県にも女学校ができました。

ザハラはもう男の子でいなくてもよくなり、この春から女学校に通いはじめました。新しく通う女学校の校長先生は、ザハラを女の子と知りながら見のがしてくれたあの校長先生です。

右から、ザハラのお母さん、お父さん、ザハラ、
校長先生、お姉さん
©UNICEF Afghanistan/Kagoshima

ザハラはうれしそうに話します。「将来は、アフガニスタンで最初の女性のパイロットになりたいの」ザハラの秘密は、今ではみんなの笑い話になりました。

（ユニセフ・アフガニスタン、クンドゥス事務所 教育担当官 籠嶋真理子さんのお話より）

もくじ

ユニセフトピックス 1
「イラク戦争」ユニセフ子どもネットワーカーからの意見 2-3
地図で見る世界の子どもたちのようす～「国連子ども特別総会」から1年～ 4-5
「世界子ども水フォーラム」に子どもネットワーカーが参加したよ！ 6-7
REPORT&INFORMATION 〈報告とお知らせ〉 8